

学びや



その「小学課業表」を減法ですが、第一等では見てみましょう。当時は関平方など、現在の高校横書きの文は右から左に読むので、科目は「句読」「誦讀(そらよみ)」「習は、現在だと歴史や地理で学ぶ内容が入っています。

また、「句読」の中に「誦讀(そらよみ)」「習は、現在だと歴史や地理で学ぶ内容が入っています。

中でも今と一番違うのは、科目ごとに試験を受けて合格しなければ上の「等」に行けなかったことです。試験に合格しないと、ずっと同じ「等」のままです。現在に比べてと、ずいぶん厳しいです。

では、各等にはどれくらい生徒がいたのでしょうか。「政治部学政類」を調べてみると、1874年(明治5)年の四等生(京都府)という資料には、すべての番組以上は、今の中学生の年齢に該当すると推定され、小について何等に何人在籍していたのかが記されています。

これを見ると、驚くべきことに、計1万6千839人中、1万5千500人以上の内容を学んでいたのは、つまり第五等に入る試験を受けておらず(または受けても不合格)、等の「国史略」、さらに課業表外の学習をする生徒だったということでした。

未検生が学んでいた内容をよく分かっていまいませんが、おそらく江戸時代の手習い(よみ・かき)代のような学習だったと考えられます。

次いで、五等生が1千155人(6.9%)、四等生が152人(0.9%)、三等生が14人(0.1%)、二等生が1人、一等生は0人でした。全校歴史博物館(下京区)生徒中の約99%が五等以下に属していたので、

試験合格で上の「等」へ

京都では全国にさきかけて学区制小学校がつくられましたが、小学校の授業内容を示す課業表が初めて作られたのも京都でした。1871(明治4)年8月のことです。では、第五等では加法・

第一等 第二等 第三等 第四等 第五等

小学課業表				
算術	習字	誦讀	句讀	
求用算問 開平算問 開方算問 開立方問 開立方問	公用文 即題手束	外國里程 外國里程 外國里程	日本外史 揚如錄 萬國公法 大政諸規則	第一等
比例法 比例法 比例法	諸君手文 諸君手文 諸君手文	內國里程 本邦海程 本邦海程	日本政記 五、五、五 真政大意 西洋事情	第二等
算術諸法 算術諸法 算術諸法	私用文 高貴往來 高貴往來	帝号 醫學手書 醫學手書	國史略 小、小、小 地學手冊 生活諸書目	第三等
除法 除法 除法	受取諸券 借字盡 借字盡	國号 國号 國号	職方今 論語 世及國語 世及國語	第四等
加法 加法 加法	手習諸券 支、支、支 支、支、支	五十額 五十額 五十額	孝、孝、孝 孝、孝、孝 孝、孝、孝	第五等

1871(明治4)年の「小学課業表」等について科目の内容が記載されている(京都市学校歴史博物館提供)

当時の12歳以上も小学生に通うことができたの、後の時代の史料と併せて検証すると、1874年(明治5)年の四等生(京都府)という資料には、すべての番組以上は、今の中学生の年齢に該当すると推定され、小について何等に何人在籍していたのかが記されています。これをみると、驚くべきことに、計1万6千839人中、1万5千500人以上の内容を学んでいたのは、つまり第五等に入る試験を受けておらず(または受けても不合格)、等の「国史略」、さらに課業表外の学習をする生徒だったということでした。未検生が学んでいた内容をよく分かっていまいませんが、おそらく江戸時代の手習い(よみ・かき)代のような学習だったと考えられます。次いで、五等生が1千155人(6.9%)、四等生が152人(0.9%)、三等生が14人(0.1%)、二等生が1人、一等生は0人でした。全校歴史博物館(下京区)生徒中の約99%が五等以下に属していたので、